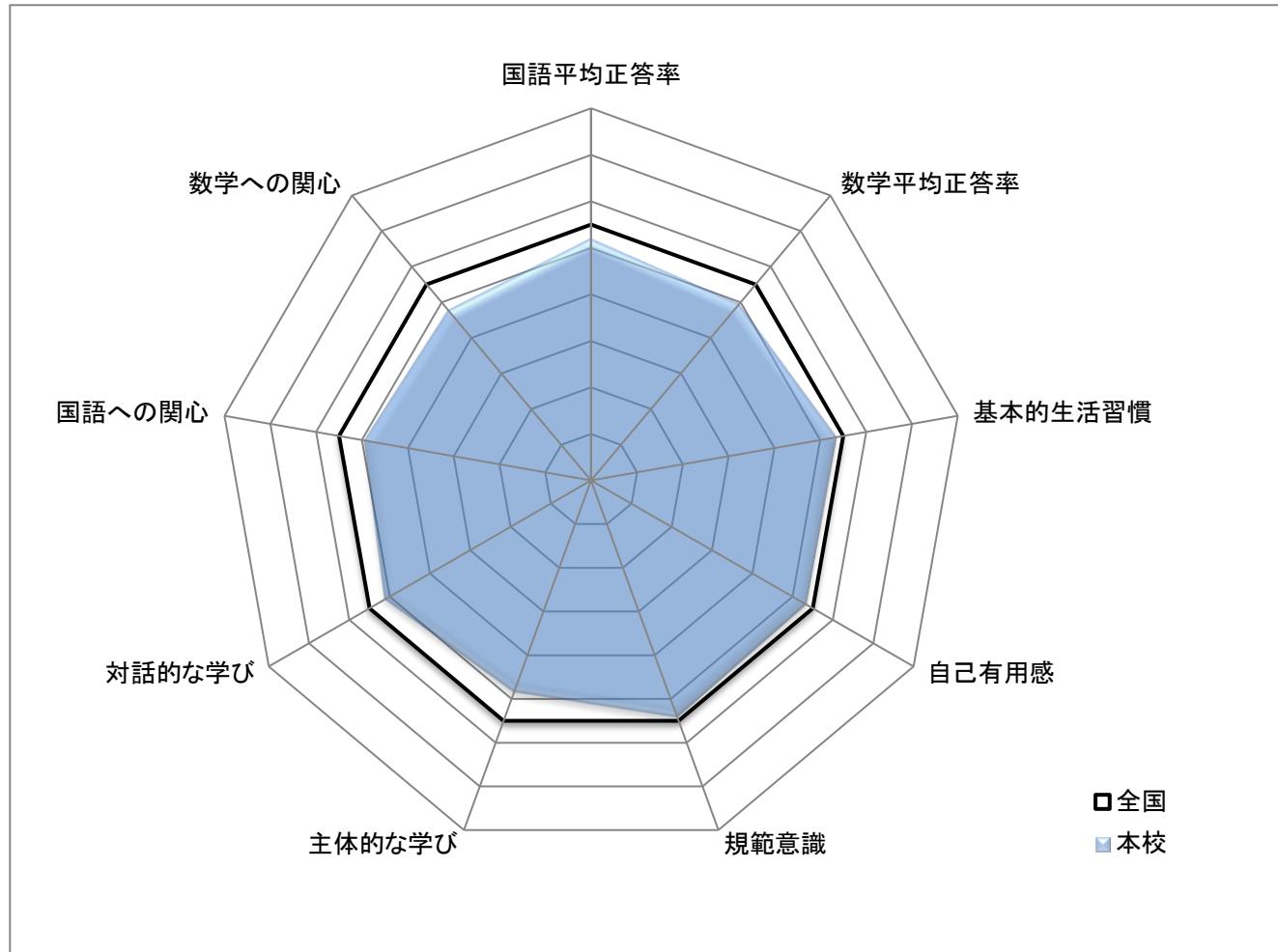


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

学習状況による調査では、自己有用感や規範意識、基本的生活習慣の設問で全国平均とほぼ同等の結果が見られる。このことから、学校生活が充実していることが見受けられる。その一方で、教科への関心や対話的な学び、主体的な学びの設問では、全国平均よりも低い傾向にある。こういったことが要因として、国語や数学における平均正答率は全国平均よりも低い結果として現れた。学習に対して意欲をもって取り組む生徒を増やすことが必要となる。

《現状把握》

学力調査の結果から、国語においては3.3ポイント。数学においては5.3ポイント全国平均には届かなかった。また、各教科への関心の値も全国平均とは差があり、このことから、学習に対する意欲や態度には課題がある。学習意欲を高める学びや、基礎学力の定着、学力向上に向けた各教科の取組を一層充実させ、生徒に寄り添った個別最適な学びを行う必要があると考えられる。

《授業改善のポイント》

【国語】記述を伴う問題の正答率が低く、短答式記述式とともに正答率が平均と離れていた。また、理由を書く問題では不正解率が高いだけでなく、無回答率が著しく高かった。生徒の読解力を高め、自分の考えを表現する力を身に付けさせる授業、生徒が最後まで粘り強く回答する意欲を養う授業を繰り返していく。

【数学】基本的な計算はできているが、文章問題になるとその力が発揮できない現状がある。その傾向として、計算力を文章問題でどのように扱えば良いのかわからないため諦めてしまう生徒が多い。こういった課題を解決するために、授業中に文章問題を積極的に多く取り入れ、思考力判断力を高めていく授業を行っていく。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習定着に向けて

- ①「EDOスク」定期考查前集中講座の実施
- ②定期考查前、全教科における質問教室の実施
- ③ドリルパークを活用した家庭学習の実施
- ④各種コンテストに向けた家庭での取り組み
- ⑤家庭への情報発信（学校・学年便り・保護者会）
- ⑥メディアコントロールを活用した学習環境の整備